

平成 27 年度 修士論文

タイトルを炊いとる

群馬大学大学院理工学府 理工学専攻
電子情報・数理教育プログラム

擬音 太郎

指導教員: 指導 四太郎 准教授
主査: 主査 三太郎 教授

平成 30 年 2 月

平成 27 年度 修士論文

タイトルを炊いとる

論文要旨

題名がしょうもなさすぎて笑ってる。Lorem ipsum dolor sit amet, consectetur adipiscing elit. Ut purus elit, vestibulum ut, placerat ac, adipiscing vitae, felis. Curabitur dictum gravida mauris. Nam arcu libero, nonummy eget, consectetur id, vulputate a, magna. Donec vehicula augue eu neque. Pellentesque habitant morbi tristique senectus et netus et malesuada fames ac turpis egestas. Mauris ut leo. Cras viverra metus rhoncus sem. Nulla et lectus vestibulum urna fringilla ultrices. Phasellus eu tellus sit amet tortor gravida placerat. Integer sapien est, iaculis in, pretium quis, viverra ac, nunc. Praesent eget sem vel leo ultrices bibendum. Aenean faucibus. Morbi dolor nulla, malesuada eu, pulvinar at, mollis ac, nulla. Curabitur auctor semper nulla. Donec varius orci eget risus. Duis nibh mi, congue eu, accumsan eleifend, sagittis quis, diam. Duis eget orci sit amet orci dignissim rutrum.

キーワード

L^AT_EX, クラスファイル, 機械学習, パターン認識.

群馬大学大学院理工学府 理工学専攻 電子情報・数理教育プログラム

擬音 太郎

目次

第 1 章	はじめに	1
1.1	このクラスファイルについて	1
1.2	導入	1
1.3	本文書の構成	1
第 2 章	クラスファイルについて	3
2.1	BXjscls 由来の設定・コマンド	3
2.2	新たに定義したコマンド	3
2.3	試し刷りとか添削とか	4
第 3 章	図表のサンプル	5
3.1	図	5
3.2	表	5
第 4 章	おわりに	7
	謝辞	7
付録 A	証明の補遺	11
A.1	セクション	11
	参考文献	13

図目次

3.1	TikZ による作図.	6
-----	---------------------	---

表目次

3.1	謎の表.	6
-----	--------------	---

第 1 章

はじめに

2010 年代も後半になって `jreport` とかの標準和文文書クラスを使うのはつらすぎる.

1.1 このクラスファイルについて

これは僕が所属コースの修士論文を書くために作成した $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X} 2_{\epsilon}$ クラスファイルのようなものである. 弊ラボには [1] の修士論文テンプレートを博士課程の人間が手入れしたものが置いてあるのだが, 僕は $\text{pL}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X} 2_{\epsilon}$ 新ドキュメントクラスと同等の組版結果を $\text{LuaL}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ で得たいので, そのテンプレートを参考にして $\text{pL}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ 依存を取り除き, またいくつかのコマンドを改めて定義したものを修士論文用クラスとすることにした.

1.2 導入

`st-ei-mthesis.cls` を論文原稿のディレクトリに保存し, 原稿から

```
\documentclass[dvipdfmx,platex]{st-ei-mthesis}
```

としてクラスファイルを読み込む ($\text{pL}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}+\text{dvipdfmx}$ の場合). 詳細については第 2 章を参照のこと.

1.3 本文書の構成

以降の章でクラスファイルの使いかた, 図表挿入のテストをやったりやらなかったりする.

第 2 章

クラスファイルについて

2.1 BXjscls 由来の設定・コマンド

2.1.1 クラスオプション

BXjscls パッケージをベースに用いているので、[2] を参考に必要なクラスオプションを取捨選択してほしい。

■**p_AT_EX** の場合 プリアンブルに`\documentclass[dvipdfmx,latex]{st-ei-mthesis}` と記述。

■**Lua_AT_EX** の場合 プリアンブルに`\documentclass[lualatex]{st-ei-mthesis}` と記述。

2.1.2 コマンド

BXjscls パッケージが提供するもののうち、ユーザーにとって重要そうなもののみについて簡単な説明をする。

■**setpagelayout** 余白などの用紙使いについて設定できる。書式については **geometry** パッケージのものをそのまま使えるので、パッケージのドキュメントや Web の記事などを参考に調整すればよい。

2.2 新たに定義したコマンド

2.2.1 タイトルページ用のコマンド

- **jyear**: ○○年度の○○の部分。和暦とか西暦とか両方考えるのが面倒だったので使う側に任せる。
- **jtitle**: 論文のタイトル。
- **jauthor**: 著者名。
- **jsupervisor**: 指導教員。
- **jexaminer**: 主査。
- **jdate**: 日付。

以上を設定した状態で`\jmaketitle`によってタイトルページが生成できる。

2.2.2 要旨ページ用のコマンド

2.2.1 節で説明したもののうち **jyear**, **jtitle**, **jauthor** が設定してある状態で`\begin{jabstract}`〜`\end{jabstract}`環境内に要旨の文章を記述すると要旨ページが作成される。このときあらかじめ

jkeywords にキーワード群が設定されていれば，要旨の下にキーワード一覧が出力される．見出しを『論文要旨』以外の文言に変更したければ\begin{jabstract}[要旨] などとすればよい．

2.2.3 謝辞用環境

\begin{acknowledgement}～\end{acknowledgement}環境内に謝辞を書ける．要旨環境と同様にオプションで見出しを変更できる．

2.3 試し刷りとか添削とか

\documentclass[platex,dvipdfmx,oneside,openany]{st-ei-mthesis} などとすれば余分な空白ページが出力されない．\setpagelayout{hmargin=20mm}などとして左右のマージンを同じにしまってもよいかも．

第 3 章

図表のサンプル

3.1 図

図表はページの上に出す. TikZ で描画した図を図 3.1 に示す.

3.2 表

面倒くさがりながらも作成した雑な表を表 3.1 に示す.

図 3.1 TikZ による作図. キャプションにはいろいろ書いても目次には概要しか出なくて済む.

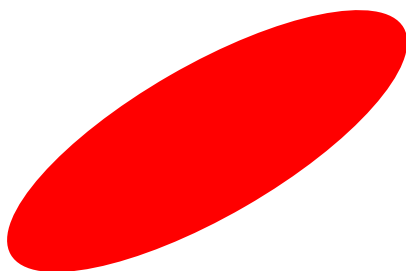


表	表?
はい	はい
いいえ	NULL

表 3.1 これは何の表ですか. Nam dui ligula, fringilla a, euismod sodales, sollicitudin vel, wisi. Morbi auctor lorem non justo. Nam lacus libero, pretium at, lobortis vitae, ultricies et, tellus. Donec aliquet, tortor sed accumsan bibendum, erat ligula aliquet magna, vitae ornare odio metus a mi. Morbi ac orci et nisl hendrerit mollis. Suspendisse ut massa. Cras nec ante. Pellentesque a nulla. Cum sociis natoque penatibus et magnis dis parturient montes, nascetur ridiculus mus. Aliquam tincidunt urna. Nulla ullamcorper vestibulum turpis. Pellentesque cursus luctus mauris.

第 4 章

おわりに

Lua_{La}T_EX でもいい感じに組版できそうよかった。

`st-ei-mthesis.cls` は一応スクラッチから書いてはいますが経緯を考えると著作権の概念が曖昧な気がするので、僕 (@gion-xy) はクラスファイル `st-ei-mthesis.cls` について権利を主張しないことにします。自由に改変・配布してください。強いていえば GitHub の URL とかつけてこれをベースに・参考にしたよ、とか書いてくれるとうれしいかもしれません。

謝辞

いい感じのテンプレートを公開してくださっている ymrl さん，さらに元となるものを作成した kurokobo さんに感謝いたします。

付録 A

証明の補遺

A.1 セクション

A.1.1 サブセクション

見本なのでさして書くことがない。Nulla malesuada porttitor diam. Donec felis erat, congue non, volutpat at, tincidunt tristique, libero. Vivamus viverra fermentum felis. Donec nonummy pellentesque ante. Phasellus adipiscing semper elit. Proin fermentum massa ac quam. Sed diam turpis, molestie vitae, placerat a, molestie nec, leo. Maecenas lacinia. Nam ipsum ligula, eleifend at, accumsan nec, suscipit a, ipsum. Morbi blandit ligula feugiat magna. Nunc eleifend consequat lorem. Sed lacinia nulla vitae enim. Pellentesque tincidunt purus vel magna. Integer non enim. Praesent euismod nunc eu purus. Donec bibendum quam in tellus. Nullam cursus pulvinar lectus. Donec et mi. Nam vulputate metus eu enim. Vestibulum pellentesque felis eu massa.

参考文献

- [1] <http://ymrl.github.io/thesis-template/>, 2018/1/12.
- [2] <https://github.com/zr-tex8r/BXjscls/blob/master/bxjscls-manual.pdf>, 2018/1/12.